

昨年度の活動について

ここに書いたこと以外もがんばっています

◆委員会での活動

昨年は5月まで委員長として産業建設常任委員会に所属、それ以降は通常の委員として同じ委員会に所属しています。

委員長として、住宅リフォーム補助に関して議員間討議から委員会の意見としてまとめ、市に意見を提出し、結果としてリフォーム助成の拡充につながりました。また、商工会議所との懇談、予算案の審議などに工夫を取り入れるなどの委員会としての動きはもちろん、所管事務調査で道路のアセットマネジメントや水道事業についてなど、

一定の方向性をつけることができたとおもいます。

◆公約に関する活動



また議会外の活動について、12月に鈴鹿医療科学大学で地域医療を応援する会でのシンポジ

ウムの開催、10月に構想日本の伊藤氏を鈴鹿にお招きし事業仕分けの勉強会を行うなど、公施設やオープンガバメントなどの行政視察や研修も含め、これからの鈴鹿市政に向けての学びをしっかりと行いました。なかなか表に出しにくいのですが、一般質問などを通じて、市政の変革に一定の取り組みができたと思います。

◆今年の活動方向

今年は原点に戻り、地域コミュニティや住民自治といった課題にしっかりと取り組み、オープンガバメントとの連携を考えるなど、**市民の視点からの活動**に力を入れたいと考えています。

- ### 昨年の一般質問
- 初議会からこれまで
毎議会で取り組んでいます
- ①部活動について (3月定例会)
 - ②退職手当(市長退職手当)
 - ③給食への公募メニュー (6月定例会)
 - ④総合計画について (9月定例会)
 - ⑤行政情報オープンデータ化 (12月定例会)
 - ⑥有権者教育について
 - ⑦図書館について
- ※質疑や討論、委員会もしっかりと取り組んでいます。

昨年も一般質問を全定例会で行いました。項目は上の内容になっており、それぞれ行政とやり取りを継続しているものもあつります。

3月の内容について、部活動は部活の運営指針づくりと新しい部活運営を提案、退職手当は市長の担当見直しを、公募メニューの可能性を問いました。現時点での成果は、**担当見直しと部活動**についてが取り組まれていくことです。

6月は総合計画とオープンデータについて、総合計画は新しい計画の策定期限にきているのでそのことを確認、オープンデ

南相馬市を訪問して

ひとつではない課題として考えるために

避難指示区域の概念図



◆自治体議員として

昨年5月、福島県南相馬市の状況を大府市の鷹羽議員と敦賀市の前川議員と視察に行きました。目的は放射能による避難区域の現状と、その影響を自分の目で見て考えるためです。

南相馬市では国道6号線を軸にしながら移動し、南相馬市職員の福島さんや身内の中川議員から、海岸線での被害状況なども含めていろいろと教えて頂きました。写真は中川議員のご自宅を伺っている所です。



◆無人のまち

JR福島駅近くには「除染情報プラザ」があり、福島の方々にとって身近な問題ということを感じます。福島市から南相馬市へは路線バスで移動、右の地図で左側から右側ですが、途中の飯館村は無人で、まちすべの時間が止まっています。南相馬市では、右下の放射線の線量計が希望する家庭に配布されていました。



小高区の様子です。無人のまちには、泥棒よけの意味も含めての音楽が流れ、駅には自転車や、クリーニング店やタクシーも、避難したその日のまま置き去りにされ、町の時間が止まっています。



放射能について、現地で短期間すごした中では、影響を感じることはありません。放射性物質についても、匂いがあるわけでも、線を越えたら気分が悪くなるわけでもなく、地図では線引きされているけれども、実感はありません。

原発事故の影響を見て心に刺さったのは、左上写真の小高区で見た無人のまちの光景です。津波で壊されたわけではなく、地震被害もほとんどなく、地震後の様子がそのまま残され、人の営みを感じさせる状況なのに人がそこにいないまち、生活していた時間だけがそこに閉じ込められたように、入ることはできません。住むことができない無人のまちがあるのです。

除染作業をして、作業で出るモノを処分する先が見つからない。ただけを処理しても、今まで暮らしていた生活空間ぜんぶから放射性物質を取り除くことはできない。今なお、原発事故は地域を壊し続けているのです。

◆中川議員との話

中川議員からは現地の状況を話して頂きました。メモの一部を転記させて頂きます。内容を詳細に書いているわけではありませんがご了承ください。

- ・ 福島県の仮設住宅に小高区の方が居住しているが、津波で被災した避難者と、東電の補償がある小高区住民との差。20キロと30キロの線引きが住民分断の原因。同じ地区でも問題になる場合がある。
- ・ 仲良く暮らしていた同居世帯が、避難を機に家族バラバラになってしまったことも。
- ・ 市内に働く場所はあるが、避難した人には働く場所がないというミスマッチ。
- ・ 「震災でわかったのは、国も県もなにもしてくれない」2年経ってもどこから手をつけていいかわからない。
- ・ 除染に同意しない↓補償で暮らす↓働かなくなる。
- ・ お金が人を狂わせる。

お話を聞いて感じたのは、津波とは違った形で原発事故の被害があることです。南相馬に見た被災状況は、目に見える被害以上に地域内住民の「絆」を壊している点で、非常に深刻な問題という事です。

また中川議員の言葉は、今の国政と地方との関係、県と市の関係、自治と住民の関係を考える上で重い言葉でした。